

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命



2010年3月期 決算・経営説明会

2010年5月24日
第一生命保険株式会社

■ 2010年3月期決算の概況と2011年3月期業績予想	1
■ ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (EEV)	5
■ 経営戦略	11
➢ 中核事業の競争力強化	14
➢ 成長市場への取り組み	19
➢ 資本政策	23
■ 質疑応答	26
■ 参考データ	27

2010年3月期決算の概況と 2011年3月期業績予想

連結主要業績

(億円)

	09/3期	10/3期	増減
経常収益	52,252	52,940	+687
第一生命単体	51,828	43,315	8,512
経常利益	633	1,882	+1,248
第一生命単体	1,091	1,936	+844
当期純利益 ⁽¹⁾⁽²⁾	218	556	+338
第一生命単体	655	608	47

< 参考 >

10/3期 (予想) ⁽³⁾	増減 (実績vs予想)
51,070	+1,870
42,410	+905
1,780	+102
1,850	+86
500	+56
560	+48

- (1) 当社は2010年3月31日まで相互会社でありましたが、当期純剰余に代えて当期純利益と記載しております。
- (2) 相互会社においては、社員配当準備金繰入額は剰余金処分により処理されますが、株式会社においては、契約者配当準備金繰入額は損益計算書において費用処理されます。従って、当期純剰余より社員配当準備金繰入額を費用処理したと仮定して算出した数値を基に、09/3期の当期純利益を記載しております。なお、10/3期は、社員配当準備金繰入額に相当する金額を、契約者配当引当金繰入額として特別損失に計上しております。
- (3) 2010年2月22日公表。

業績予想

2011年3月期業績予想

(億円)

	10/3期	11/3期(予)	増減
日経平均株価	⁽¹⁾ 10,671円	11,000円	+329円
為替レート(ドル)	93.0円	91.0円	2.0円
為替レート(ユーロ)	124.9円	122.0円	2.9円
10年国債金利	1.39%	1.39%	±0.00%
経常収益	52,940	43,260	9,680
第一生命単体	43,315	39,720	3,595
第一フロンティア	9,613	3,500	6,113
経常利益	1,882	1,950	+67
第一生命単体	1,936	2,090	+153
第一フロンティア	83	160	76
当期純利益	556	500	56
第一生命単体	608	620	+11
第一フロンティア ⁽²⁾	76	144	67
1株当たり配当金	-	1,600円	-

() 上記とは別に、定款附則第2条の規定に基づき2010年4月16日を基準日として、第1回株主配当を行う予定であり、その金額は1株当たり1,000円を予定しています。

(参考)

基礎利益 (第一生命単体)	3,301	3,000弱	-
------------------	-------	--------	---

(1) 3月月中平均

(2) 持分考慮後

第一フロンティア生命の業績予想

(億円)

	10/3期	11/3期(予)	増減
日経平均株価	11,089円	11,000円	89円
為替レート(ドル)	93.0円	91.0円	2.0円
為替レート(ユーロ)	124.9円	122.0円	2.9円
10年国債金利	1.39%	1.39%	± 0.00%
当期純利益(は損失)	83	160	76
(A) 危険準備金繰入額	404	200	204
(B) 最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(は戻入)	369	160	529
(C) 最低保証リスクに対するヘッジ損失	158	40	198
当期純利益 + (A) + (B) + (C)	110	160	49

ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV)

第一生命

ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー

第一生命グループのEEV

(億円)

	09/3末	10/3末	増減
EEV	17,584	28,363	10,778
修正純資産	12,966	18,635	5,668
純資産の部合計	6,450	7,209	758
負債中の内部留保	6,258	6,985	727
含み損益	6,758	13,629	6,870
税効果等	6,501	9,189	2,687
保有契約価値	4,618	9,728	5,109
確実性等価将来利益現価	6,442	11,823	5,381
オプションと保証の時間価値	974	1,233	258
必要資本維持のための費用	369	382	13
非フィナンシャル・リスクに係る費用	480	480	0
新契約価値	835	1,189	353

第一生命単体のEEV

(億円)

	09/3末	10/3末	増減
EEV	17,959	28,680	10,721
修正純資産	13,458	18,809	5,350
保有契約価値	4,500	9,871	5,371
新契約価値	1,021	1,356	335

第一フロンティア生命のEEV

(億円)

	09/3末	10/3末	増減
EEV	1,218	1,463	244
修正純資産	1,093	1,622	529
保有契約価値	125	159	285
新契約価値	197	185	11

第一生命

新契約価値

【第一生命グループ】

(億円)

	09/3期	10/3期	増減
新契約価値(A)	835	1,189	353
収入保険料現価(B)	25,055	29,895	4,839
新契約マージン(A / B)	3.34%	3.98%	0.64ポイント

内訳

【第一生命】

【フロンティア】

(億円)

	【第一生命】			【フロンティア】		
	09/3期	10/3期	増減	09/3期	10/3期	増減
新契約価値(A)	1,021	1,356	335	197	185	11
収入保険料現価(B)	21,613	22,654	1,041	3,664	8,045	4,381
新契約マージン(A / B)	4.73%	5.99%	1.26ポイント	5.40%	2.31%	3.09ポイント

増加要因

- ・解約失効率の改善、事業費の削減
- ・販売量の増加

改善要因

- ・経済環境の影響
- ・残高の積み上げによるユニットコストの改善

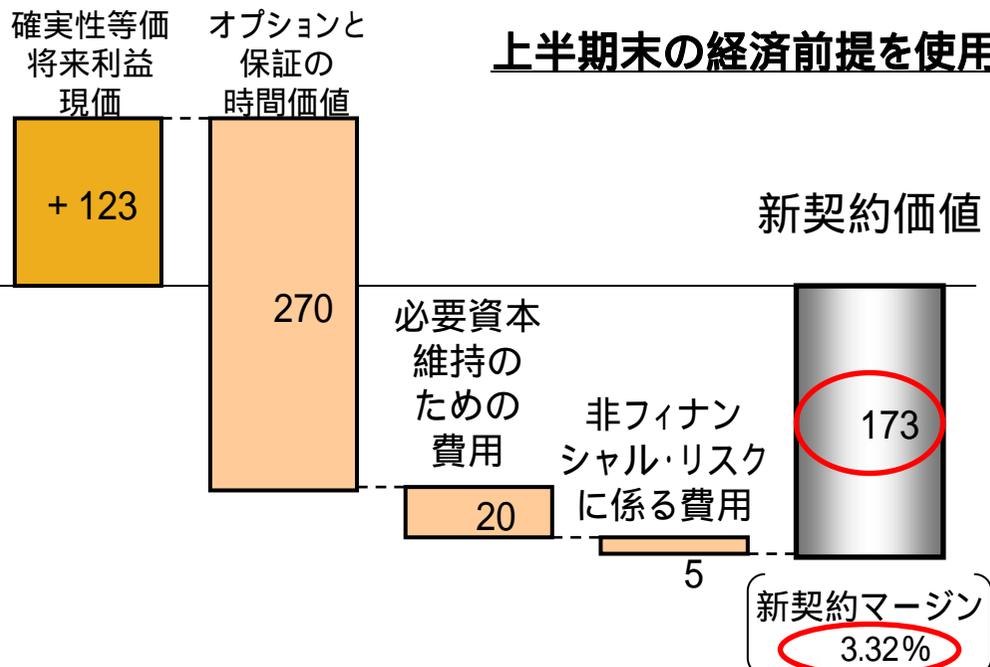
第一生命

第一フロンティア生命の新契約価値

(単位:億円)

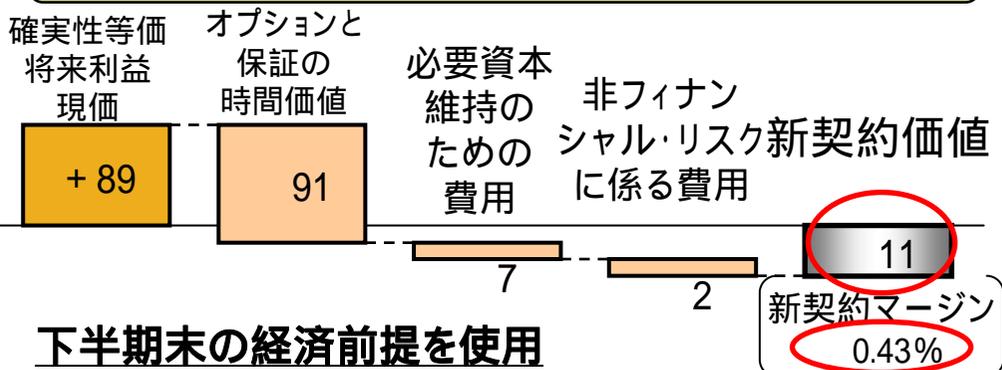
2010年3月期上半期

上半期末の経済前提を使用

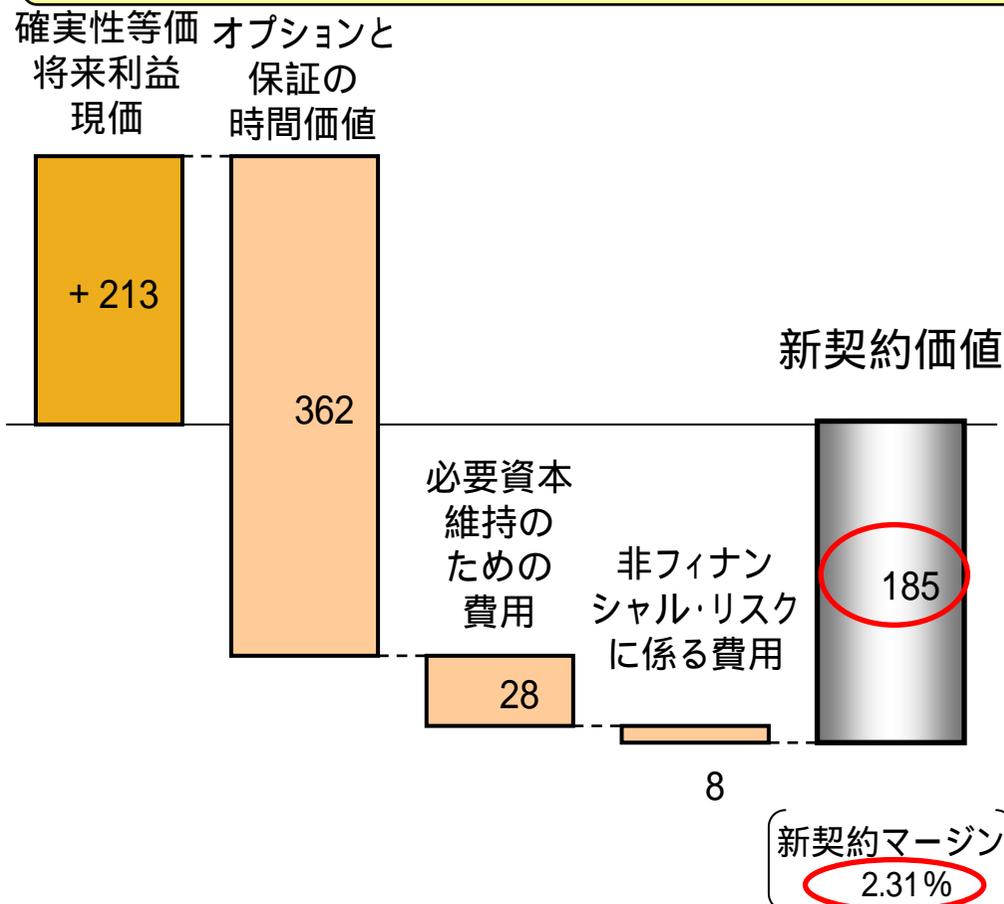


2010年3月期下半期

下半期末の経済前提を使用



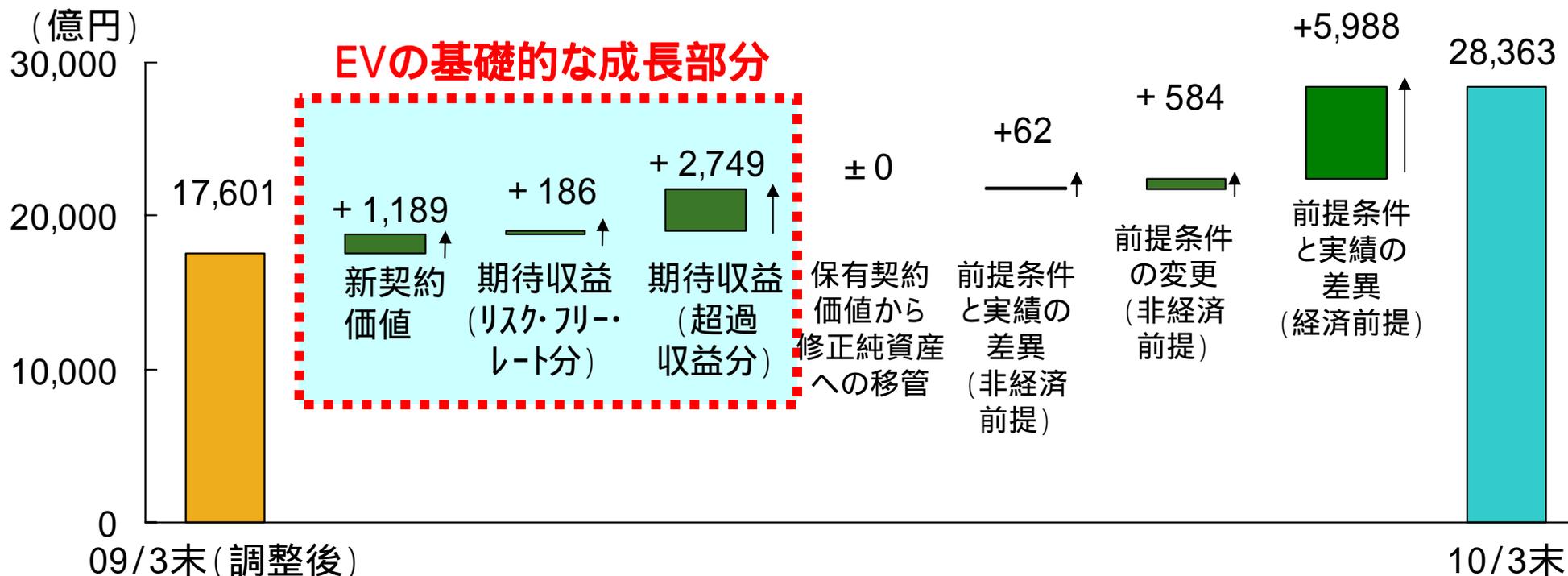
2010年3月期合計



(参考) 1年分の新契約を2010年3月末の経済前提で計算した場合 新契約価値: 136億円

第一生命

変動要因分析



< 参考 > 修正純資産・保有契約価値別の内訳 (項目は上グラフに対応) (億円)

修正純資産	12,988	±0	+31	+147	+220	+61	±0	+5,187	18,635
保有契約価値	4,613	+1,189	+155	+2,602	220	+1	+584	+801	9,728
合計	17,601	+1,189	+186	+2,749	±0	+62	+584	+5,988	28,363

< 参考 > 各社別の変動要因 (項目は上グラフに対応) (億円)

第一生命	17,959	+1,356	+134	+2,590	±0	+80	+573	+5,985	28,680
フロンティア	1,418	185	+57	+176	±0	19	+12	+2	1,463
グループ	17,601	+1,189	+186	+2,749	±0	+62	+584	+5,988	28,363

第一生命グループEEV感応度

前提条件	EEV変化率		
		修正純資産	保有契約価値
リスク・フリー・レート50bp上昇	12%	22%	34%
リスク・フリー・レート50bp低下	15%	21%	36%
株式・不動産価値10%下落	11%	12%	0%
事業費率(維持費)10%減少	5%	0%	5%
解約失効率10%減少	5%	0%	5%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	4%	0%	4%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	0%	0%	0%
必要資本を法定最低水準に変更	1%	0%	1%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	1%	0%	1%
金利スワップションのボラティリティ25%上昇	0%	0%	0%

< 参考 >

EEV変化率 (09/3末)
23%
27%
17%
8%
6%
7%
0%
2%
1%
0%

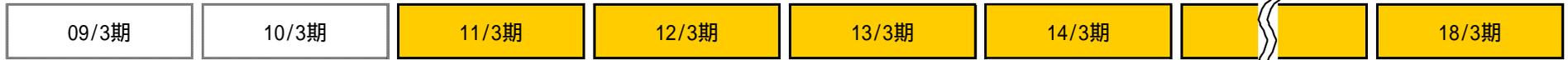
いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

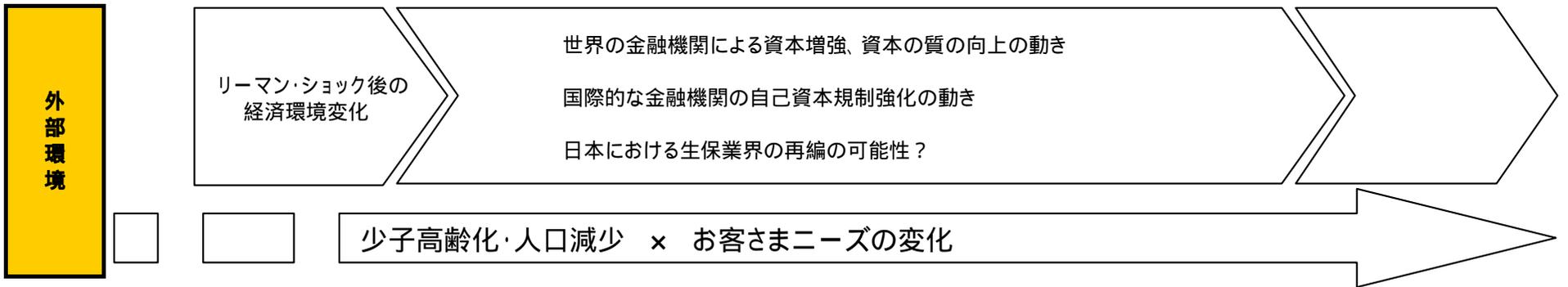
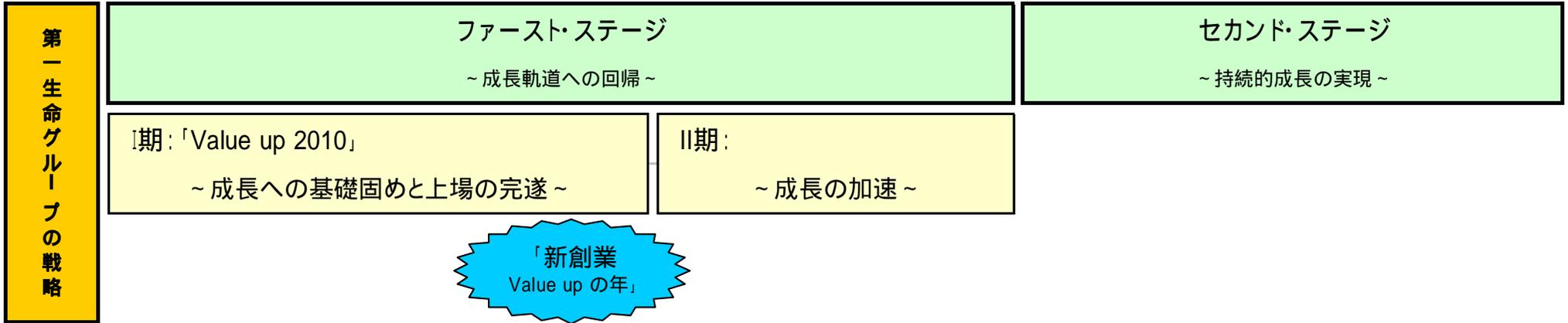
経営戦略

第一生命

今後の事業環境変化と第一生命グループの戦略



創立
110周年



中期経営計画

2009年3月期-2011年3月期中期経営計画
2011年3月期 「新創業 Value up の年」
経営計画方針

.品質保証と生産性向上による成長への基盤固め

- 1.品質保証と生産性向上の同時追求
中核事業の競争力強化
成長分野への取組強化

- 2.外部成長の活用

.強固な財務基盤の確立及び資本効率の向上

- 1.収益力強化による資本水準の増強
- 2.リスクコントロールの強化
- 3.適正な利益還元の追求

.公開会社としての内部管理態勢確立

.「人財」が成長を支える態勢の確立

第一生命

EVの増大に向けた諸施策を展開

<p>新契約価値の増大に向けた取組</p>	<p>営業のメイン指標を、EVと連動した指標へ変更 EVと連動した営業組織評価、営業職員評価の開始</p> <ul style="list-style-type: none">- EV貢献の高い商品を高評価- 継続率の向上を評価 <p>営業職員チャネルの増強 商品ラインナップの見直し</p>	<p>EVベース新契約価値の前年伸展を実現(+33%)</p> <p>継続率の大幅伸展を実現</p>
<p>保有契約価値向上に向けた取組</p>	<p>お客さま総訪問による丁寧な説明、ニーズの掘り起こしを展開</p> <p>生涯設計コンサルティング・サービスの提供</p> <p>ご来社窓口の拡充</p> <ul style="list-style-type: none">- 平日夜間や土曜日に窓口時間延長(8ヶ所)	<p>お客さま満足度の改善 「総訪問」は差別化要素に</p> <p>解約失効率は改善傾向が継続</p>
<p>ユニットコスト改善に向けた取組</p>	<p>業務・事業効率化の推進</p> <ul style="list-style-type: none">- 支社、支部組織の戦略的・効率的な組織再編- 支部・本社直結の事務体制の構築- 基幹職掌の一本化等による人事制度の改定	<p>固定コストは08/3期から累計で 230億削減</p>

第一生命

「品質保証新宣言」の取組み

品質保証を履行することで、お客さまから選び続けられ、持続的な成長の実現を目指す。
中期経営計画の「戦略の柱」と位置づけ、取組みを推進。

品質保証に向けた取組みにより、
保有契約の維持率は大手生保で優位を継続の見込み。

高品質な商品・サービスの提供

「生涯設計」のコンセプトのもと、お客さま一人ひとりの一生涯にわたる生活設計をともに考え、良質な商品・サービス・提案を提供。

分かりやすいご説明の徹底

4万人の生涯設計デザイナー(営業職員)が Face to Face のコンサルティングとサービスを提供。
その他お客さま接点も充実。

保険金等の正確かつ公平なお支払い

确实にご請求いただくための情報提供、お客さまへの确实な請求案内、お支払いできない場合のご説明体制等、お支払い態勢を整備。

商品開発の視点

商品開発時に意識している3つの視点

- 1 お客さまニーズ**
「お客さまの声」、「職員の声」を反映した商品
- 2 分かりやすさ・簡素化**
商品内容が明確であり、「ご契約時」、「ご契約期間中」、「お支払い時」にお客さまの誤解が生じにくい内容の商品、手続きがお客さまに分かりやすい商品
- 3 確実・迅速な手続き・お支払い**
「ご契約期間中」、「お支払い時」に确实に必要な手続きができる商品、保険金・給付金等を迅速にお支払いできる商品



お客さまとのさまざまな接点

生涯設計デザイナー 42,708名 (平成21年3月末)

ご来店窓口 支社窓口・支店窓口 約800カ所(平成21年10月) 本社窓口 8カ所(平成21年10月) 札幌・白比谷・名古屋・大阪・福岡 生涯設計パーク3カ所

生涯設計レポート 発行数約830万通 (平成20年度版)

コールセンター 受発信約368万件 (平成20年4月～平成21年3月)

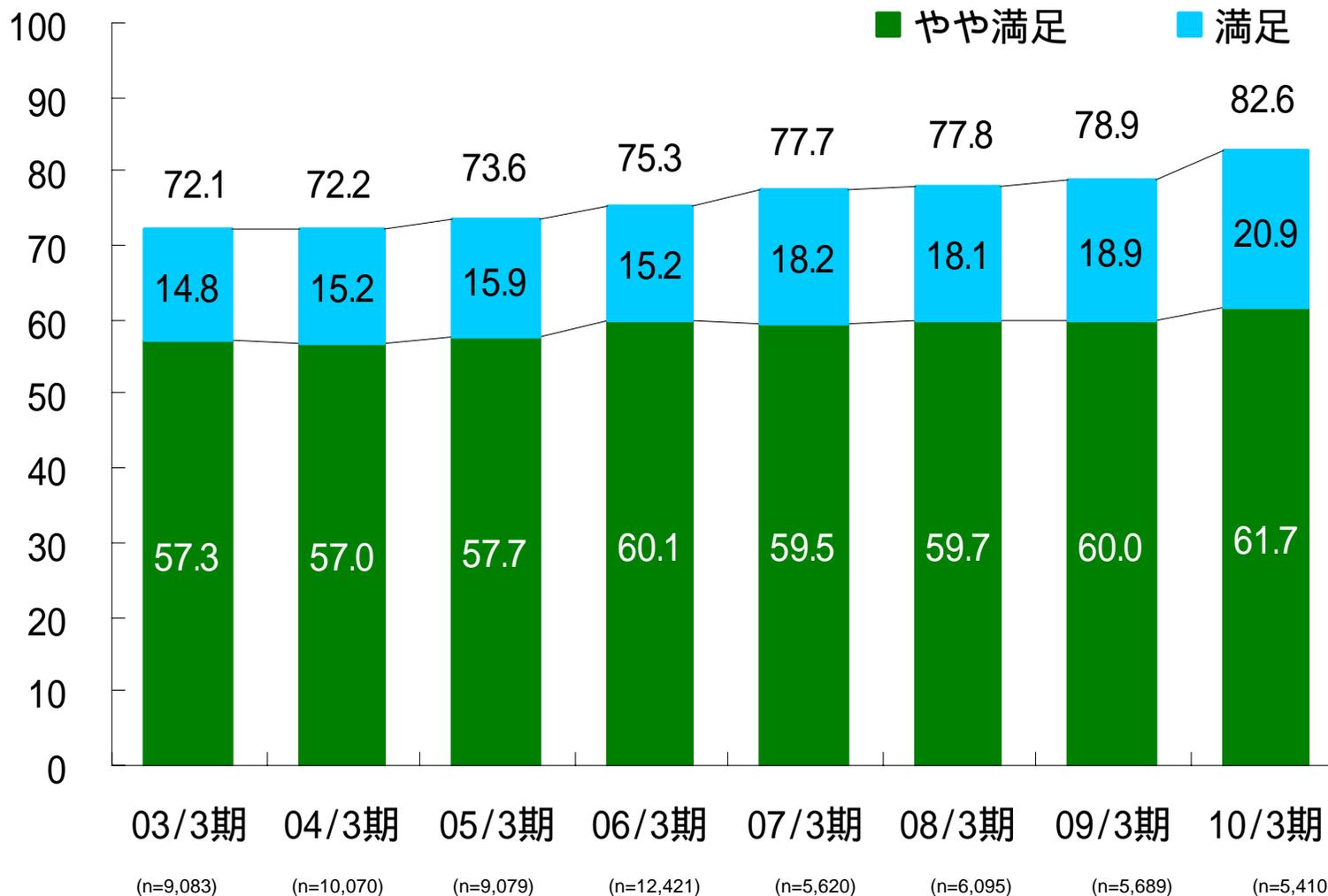
ホームページ アクセス204,072件 (平成20年4月～平成21年3月) 「ご契約内容の確認、各種お手続き」ページへのログイン件数です。

代理店 3,225店 (平成21年3月末)

第一生命

顧客満足度は8年連続の改善

総合満足度の推移⁽¹⁾

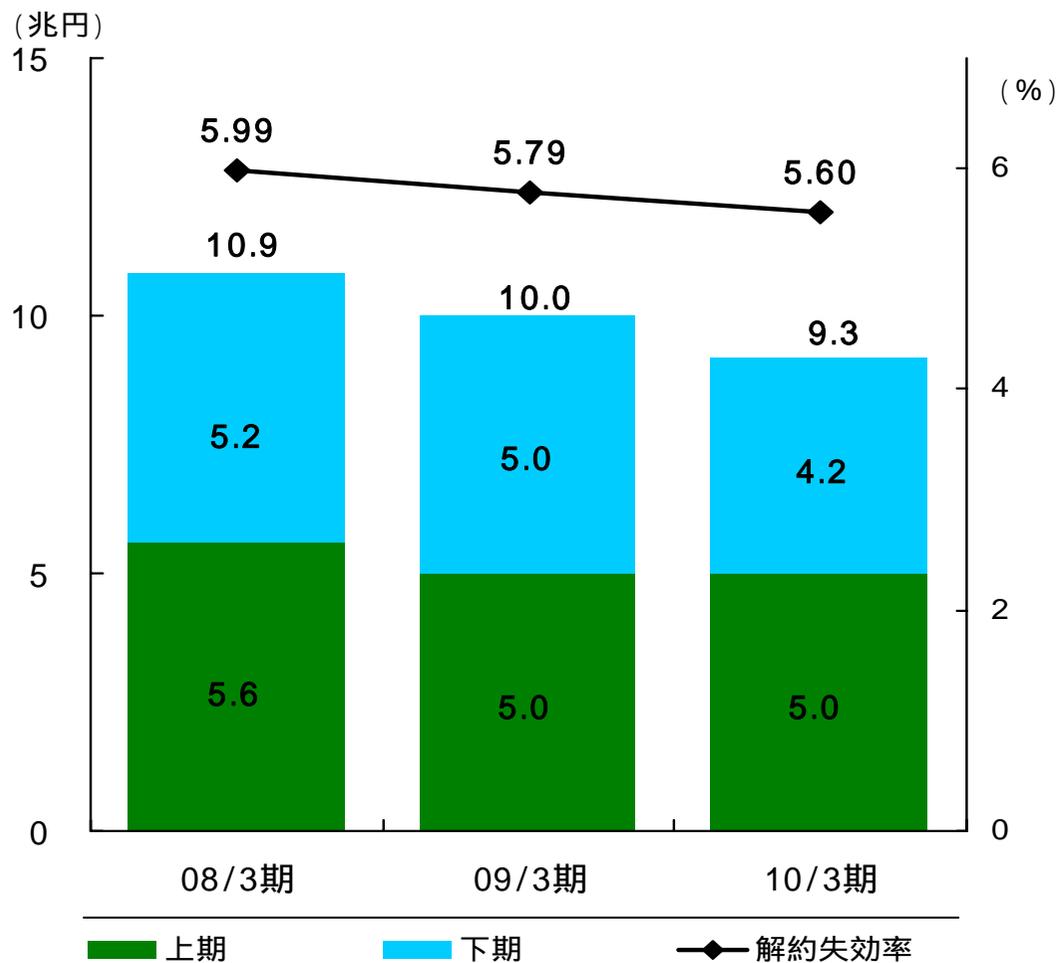


(1) 当社の「全国お客さま調査」は、お客さま満足度測定のため1998年より実施しているアンケート調査です。全国の個人及び法人の既契約者を対象に、様々な観点から外部機関によるアンケート調査を実施しております。上記グラフは個人のお客さまの満足度を表示しています。

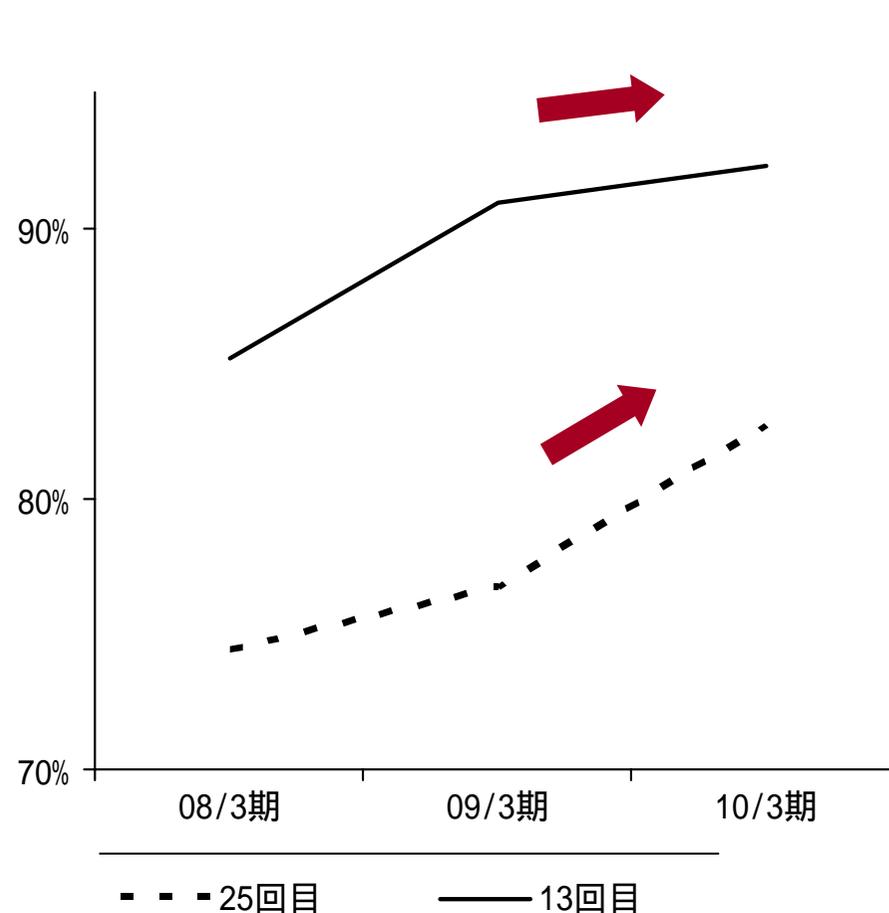
第一生命

解約失効高・継続率動向

解約失効高(個人保険・個人年金)⁽¹⁾



継続率⁽¹⁾

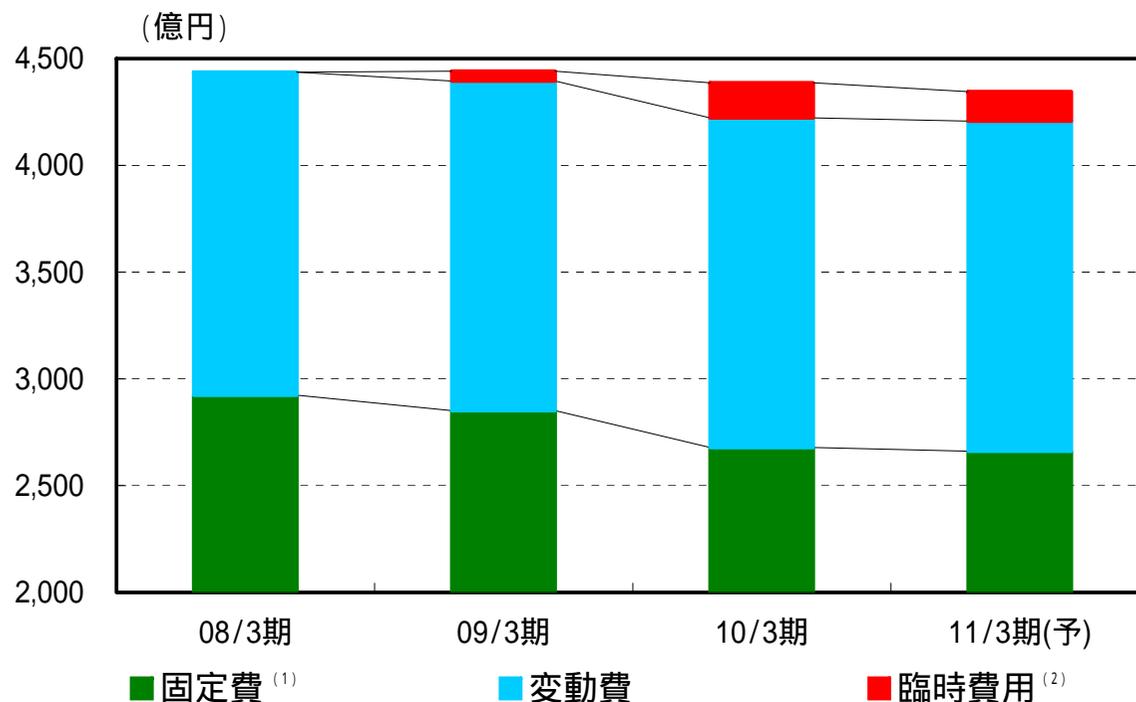


(1) 第一生命単体ベース

第一生命

事業費効率化を前倒して実現

事業費の推移(第一生命単体)



- 中期経営計画では11/3期までの3年間で累計250億円の固定費削減を計画
(第2期中期経営計画の終了する13年3月期までに350億円を計画)
- 10/3期までに累計230億円のコスト削減を達成
- 11/3月期も人財への投資とのバランスをとりつつ、当初計画を上回るコスト削減を実現すべく計画を強化

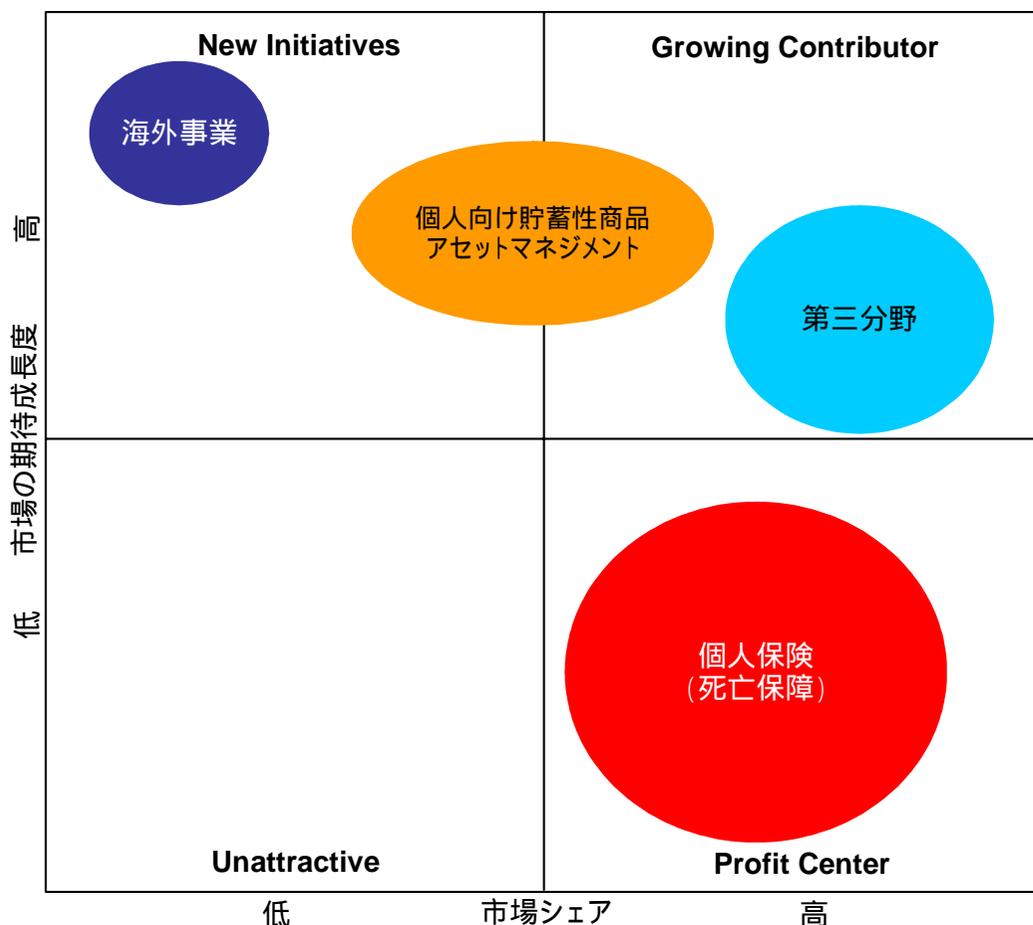
(1) 中期経営計画における固定費は、事業費中に含まれる管理職員・内勤職員等の人件費や物件費、その他経常費用に含まれる減価償却費なども含む費用の合計です。ここではこれら費用のうち、事業費に含まれる項目をまとめています。

(2) 臨時費用には株式会社化費用や、事業所再編費用、次期システム構築に係る費用を含みます。株式会社化費用のうち、事業費に計上された金額は2009年3月期、2010年3月期においてそれぞれ約44億円、約150億円でした。

第一生命

3つのビジネス・ドメインに注力

第一生命グループの事業ポートフォリオ

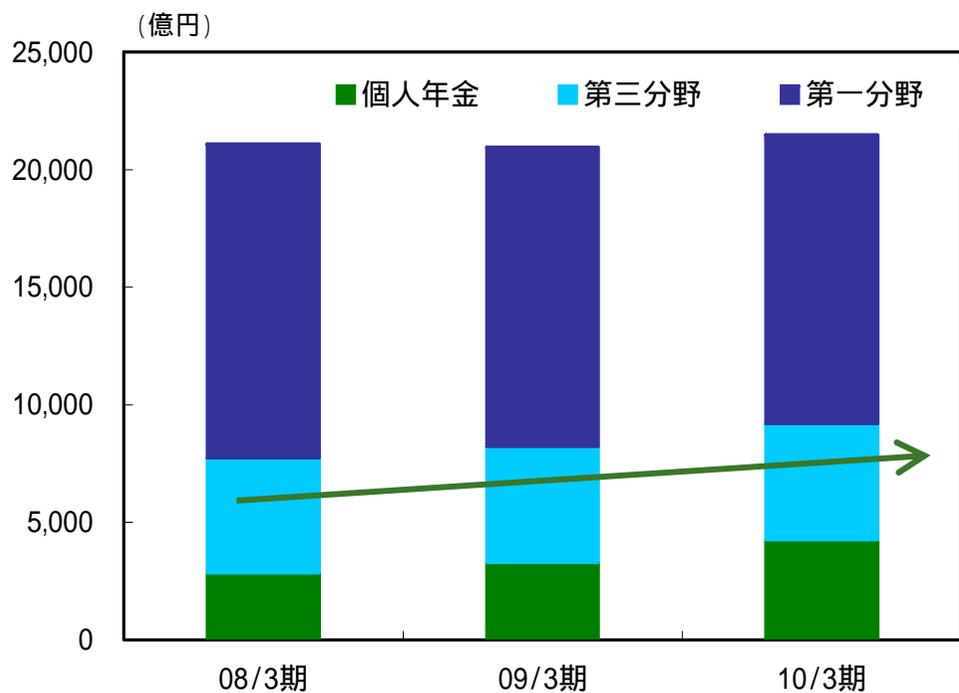


- 成長市場への取組みとして重視するのは3つのビジネス・ドメイン
 - 国内生保事業・・・第三分野、個人向け貯蓄性商品の成長を目指す
 - 海外生保事業・・・既進出地域における成長に加え、中国への早期進出を目指す
 - 資産運用ビジネス
- 内部成長のみならず、M&Aなど外部成長の機会を志向

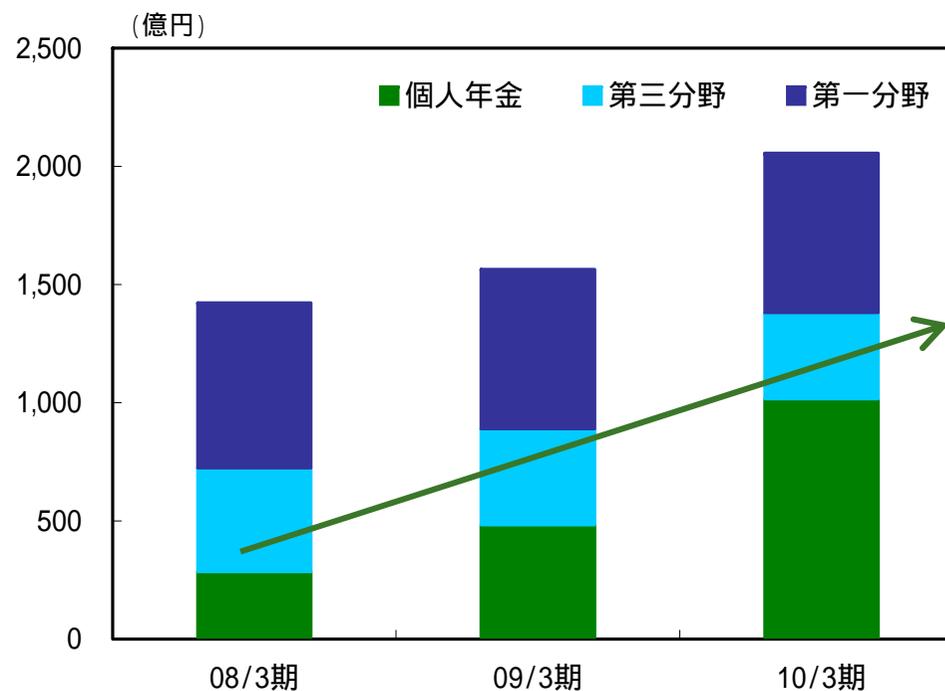
第一生命

第三分野、個人向け貯蓄性商品

分野別 保有契約 年換算保険料の推移(1)



分野別 新契約 年換算保険料の推移(1)



(1) 個人年金の年換算保険料は、第一生命単体と第一フロンティア生命の合計です。

第一生命

個人向け貯蓄性商品市場における第一フロンティア生命の成長戦略

■ 今後も成長が期待できる個人向け貯蓄性商品市場への取り組み強化

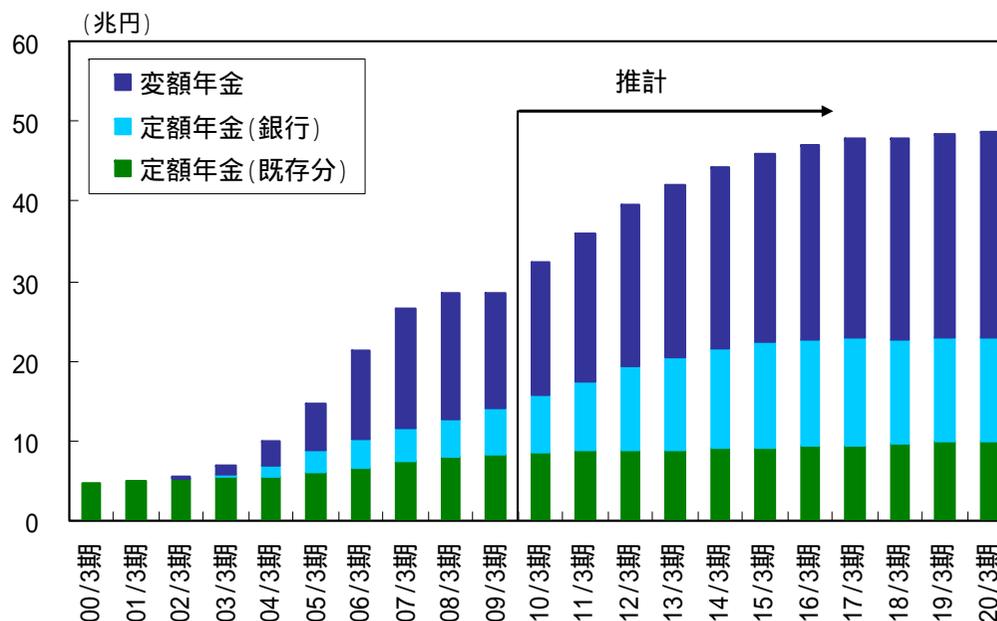
- 変額年金のメインプレーヤーとして、変額年金商品のラインナップの拡充に取り組む
- 第一フロンティア生命事業の安定化・多角化に向けて、定額年金等の商品ポートフォリオの多様化に取り組む

■ 新契約EVの早期黒字化

EEVベース新契約価値の推移

	(億円)
	新契約価値
2008年3月期	29
2009年3月期	198
2010年3月期	185
2009年9月中間期	174

一時払個人年金市場：資産残高の推移と予測⁽¹⁾



(1) 当社予想

第一生命

海外生保事業

アジア各国で将来的な保障商品市場の拡大を期待

当社が長年に亘り培ってきたノウハウを生かし、各市場におけるバリューアップを目指す

インド	+7.2%
	+29.0%



- ◆2007年12月 合併契約書
- ◆2009年2月 開業
- ◆日本の生保初のインド進出
- ◆当社26%出資
- ◆初年度収入保険料は全23社中14位
- ◆銀行支店の稼働率の伸展等を通じた販売量の伸展を目指す

中国	+8.7%
	+10.9%

上段: 直近の経済成長率

下段: 直近の生命保険料収入の伸び

早期の進出実現を目指す

当社の強み

- 営業職員チャネルマネジメントノウハウ
- 保障商品開発ノウハウ

中国市場の魅力

- 13億人超の人口
- 高い経済成長率
- 中所得者層の拡大
- 低い保険普及率(特に保障不足)

タイ	-2.3%
	+10.2%



- ◆2006年7月 団体再保険協定
- ◆2008年7月 戦略的業務提携
- ◆当社24%出資
- ◆規模拡大と経営効率の向上に向けた取組みによる成長基盤の確立を目指す

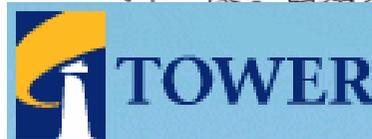
ベトナム	+5.3%
	+20%



Lifetime Partner

- ◆2007年1月 バオミンCMG社を買収
- ◆日本の生保初のベトナム進出
- ◆当社100%出資
- ◆マーケットシェアは09年に6.3%へ上昇、中期的にもシェア拡大を目指す

オーストラリア	1.5%
	+16%



- ◆2008年8月 業務提携
- ◆当社28.6%出資
- ◆当社グループへの安定的な利益貢献を目指す

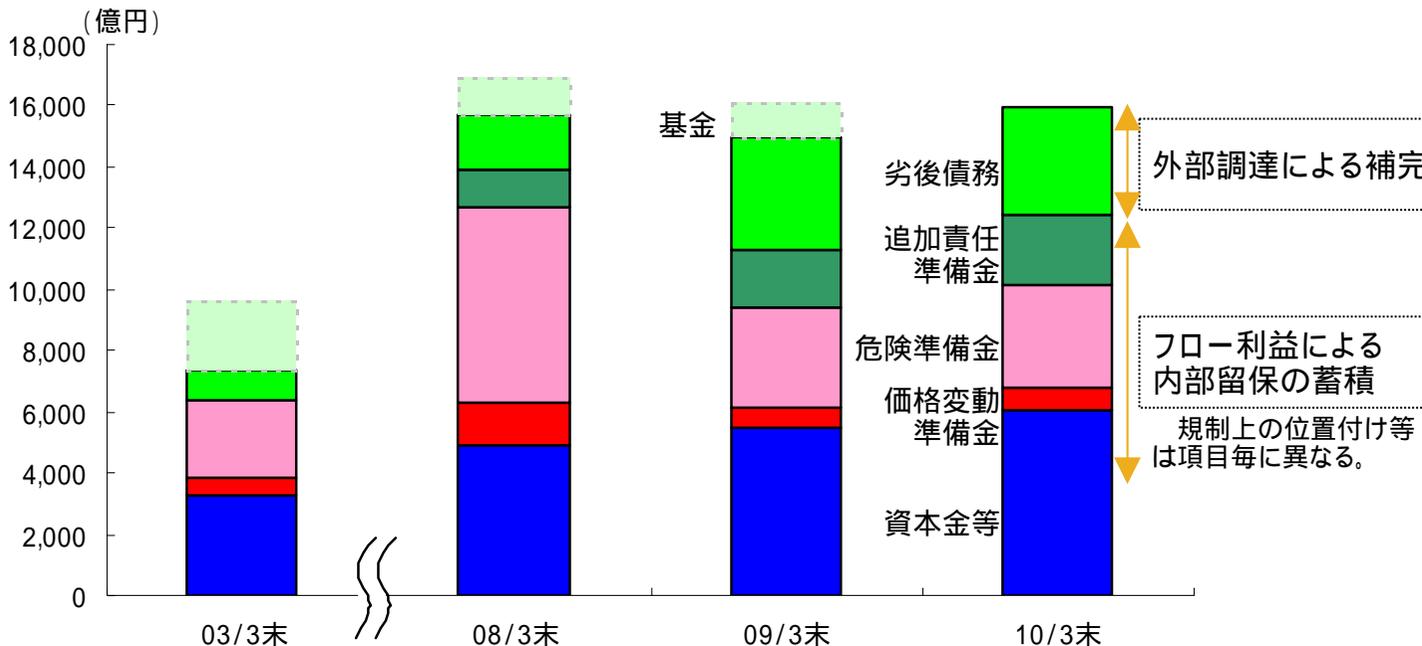
第一生命

金融危機後の資本の状況と規制動向

- 金融危機を挟み資本水準の向上に向け着実に歩を進める
- 一方、規制・会計動向はグローバルな過渡期に 2012 - 15年には本格的な経済価値ベース資本規制等へ移行

【リスクバッファの構成と推移】

金融危機の影響を受けて内部留保の取崩を行った09/3末と比べ、10/3末はフロー利益の積上げにより資本水準を改善
 (外部調達による補完資本を加えた総額では危機以前の水準に迫る)



【今後の規制・会計動向】

国内

- ✓ ソルベンシー・マージン比率
 - 短期的見直し(2012年3月導入)
 - 中期的見直し(経済価値ベース)
- ✓ 連結ソルベンシー規制
- ✓ IFRSの適用(2015 - 16年頃)

海外

- ✓ 欧州ソルベンシー (2012年導入)
- ✓ IFRSの基準制定・改定

(1) 資本金等は、基金、社外流出予定額、評価・換算差額等を除き、一般貸倒引当金(税引き後)等を含む。
 (2) 危険準備金、価格変動準備金、追加責任準備金は税引き後。

第一生命

規制動向等を踏まえた健全性の一層の強化・資本効率の向上

- 資本・財務戦略上の各種施策を着実に実行し、財務健全性の一層の強化と資本効率の向上を追求
- 戦略全般にわたり、規制・会計動向等を勘案して経済価値の視点に資する取組みを志向

【具体的な取組】

✓ フロー利益の維持・向上による内部留保の蓄積

- 追加責任準備金繰入も含めた実質的な利益は従前より安定的かつ高水準で推移
- 純資産の部の充実に留意しつつ、規制上カウントされる負債性準備金も安定的に積上げ

✓ ALMの一層の推進とリスク性資産のコントロール

- 市場動向等に留意した上での資産デュレーションの長期化、リスク性資産のコントロール、ヘッジ戦略の推進など

✓ 希薄化を伴わないハイブリッド資本の活用

- 既存劣後債務の再構築を含む、規制変更への先取的対応の検討・実施

✓ 経済価値の視点に基づくグループ内での資本運営

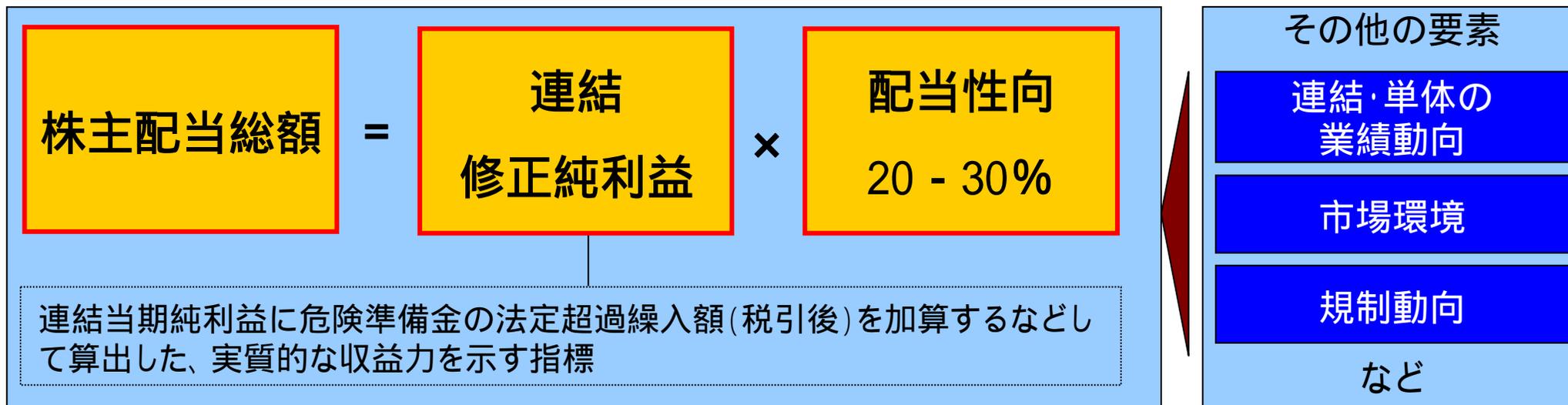
- EV成長を軸とした事業部門の評価運営、及び成長分野への資本投下をはじめとするグループ内での適切な資本配分

第一生命

株主還元の考え方

- 健全性強化、契約者配当とのバランスに配慮しつつ、中長期的に安定的な株主還元の実現を目指す
- 連結修正純利益に対する配当性向を20 - 30%とすることを目指しつつ、連結・単体の業績動向、市場環境、規制動向等を総合的に勘案し毎期配当を決定

【基本的な考え方】



【2011年3月期の期末予想配当】



いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

質疑応答

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

参考データ

第一生命

連結損益計算書・連結貸借対照表(要約)

連結損益計算書(要約)⁽¹⁾

(億円)

	09/3期	10/3期	増減
経常収益	52,252	52,940	+687
保険料等収入	32,936	37,042	+4,106
資産運用収益	11,780	12,472	+691
うち利息・配当金等収入	7,408	7,084	324
うち有価証券売却益	3,828	2,427	1,401
うち特別勘定資産運用益	-	2,896	+2,896
その他経常収益	7,535	3,425	4,110
経常費用	51,619	51,057	561
うち保険金等支払金	27,637	26,569	1,068
うち責任準備金等繰入額	277	11,942	+11,665
うち資産運用費用	14,356	3,403	10,952
うち有価証券売却損	5,048	2,078	2,969
うち有価証券評価損	4,124	78	4,045
うち特別勘定資産運用損	3,505	-	3,505
うち事業費	4,651	4,758	+107
経常利益	633	1,882	+1,248
特別損益	455	1,162	1,618
税金等調整前当期純利益	1,089	719	369
法人税等合計	894	170	724
少数株主損失	23	7	16
当期純利益	218	556	+338

連結貸借対照表(要約)

(億円)

	09/3末	10/3末	増減
資産の部合計	304,446	321,042	+16,596
うち現預金・コール	4,524	4,373	151
うち買入金銭債権	2,813	2,898	+85
うち有価証券	229,950	251,473	+21,523
うち貸付金	42,487	38,349	4,138
うち有形固定資産	12,398	12,440	+41
うち繰延税金資産	6,425	3,395	3,030
負債の部合計	298,646	311,400	+12,753
うち保険契約準備金	279,703	291,122	+11,419
うち責任準備金	274,490	286,326	+11,836
うち退職給付引当金	4,055	4,114	+58
うち価格変動準備金	1,014	1,155	+140
純資産の部合計	5,799	9,641	+3,842
うち基金等合計	6,860	5,587	1,273
うち株主資本合計			
うち評価・換算差額等合計	1,125	3,936	+5,061
うちその他有価証券評価差額金	473	4,622	+5,096
うち土地再評価差額金	622	635	12

10/4始

9,641

5,587

3,936

4,622

635

(1) 09/3期については、社員配当準備金繰入額について株式会社と同様に費用処理を行ったと仮定した場合の数値。



第一生命単体の財務諸表

損益計算書(要約) (1)

(億円)

	09/3期	10/3期	増減
経常収益	51,828	43,315	8,512
保険料等収入	29,043	28,372	670
資産運用収益	11,783	11,534	248
うち利息・配当金等収入	7,413	7,080	332
うち有価証券売却益	3,826	2,425	1,401
うち特別勘定資産運用益	-	1,931	+1,931
その他経常収益	11,001	3,408	7,592
うち責任準備金戻入額	7,377	-	7,377
経常費用	50,736	41,379	9,357
うち保険金等支払金	27,535	26,105	1,430
うち責任準備金等繰入額	271	3,282	+3,011
うち資産運用費用	14,148	3,300	10,847
うち有価証券売却損	5,048	2,078	2,969
うち有価証券評価損	4,419	105	4,314
うち特別勘定資産運用損	3,004	-	3,004
うち事業費	4,440	4,387	52
経常利益	1,091	1,936	+844
特別損益	456	1,161	1,618
税引前当期純利益	1,547	774	773
法人税等合計	891	166	725
当期純利益	655	608	47

貸借対照表(要約)

(億円)

	09/3末	10/3末	増減	
資産の部合計	300,222	308,224	+8,002	
うち現預金・コール	3,935	3,976	+40	
うち買入金銭債権	2,813	2,898	+85	
うち有価証券	226,678	239,879	+13,200	
うち貸付金	42,484	38,343	4,140	
うち有形固定資産	12,394	12,436	+41	
うち繰延税金資産	6,409	3,376	3,033	
負債の部合計	294,024	298,221	+4,197	
うち保険契約準備金	275,275	278,037	+2,761	
うち責任準備金	270,069	273,248	+3,178	
うち危険準備金	5,090	5,270	+180	
うち退職給付引当金	4,036	4,096	+59	
うち価格変動準備金	1,014	1,154	+140	
純資産の部合計	6,198	10,003	+3,804	10/4始 10,003
うち基金等合計	7,299	6,046	1,252	
うち株主資本合計				6,046
うち評価・換算差額等合計	1,101	3,956	+5,057	3,956
うちその他有価証券評価差額金	474	4,611	+5,086	4,611
うち土地再評価差額金	622	635	12	635

(1) 09/3期については、社員配当準備金繰入額について株式会社と同様に費用処理を行ったと仮定した場合の数値。



第一フロンティア生命の財務諸表

損益計算書(要約)

	(億円)		
	09/3期	10/3期	増減
経常収益	3,871	9,613	+5,741
うち保険料等収入	3,862	8,632	+4,770
うち資産運用収益	7	979	+972
経常費用	4,332	9,696	+5,363
うち保険金等支払金	94	455	+361
うち責任準備金等繰入額	3,474	8,640	+5,166
うち資産運用費用	503	162	341
うち事業費	227	386	+158
経常損益	460	83	+377
特別損益	0	0	0
税引前当期純損益	461	83	+377
法人税等合計	0	0	+0
当期純損益	461	83	+377

貸借対照表(要約)

	(億円)		
	09/3末	10/3末	増減
資産の部合計	5,564	14,231	+8,667
うち現預金・コール	493	300	193
うち有価証券	4,741	13,135	+8,393
負債の部合計	4,514	13,057	+8,542
うち保険契約準備金	4,362	13,002	+8,640
うち責任準備金	4,355	12,996	+8,640
うち危険準備金	43	447	+404
純資産の部合計	1,049	1,174	+124
うち株主資本合計	1,045	1,162	+116
資本金	1,075	1,175	+100
資本剰余金	575	675	+100
利益剰余金	604	687	83

第一生命

第一フロンティア生命の財務諸表

収支の状況

(億円)

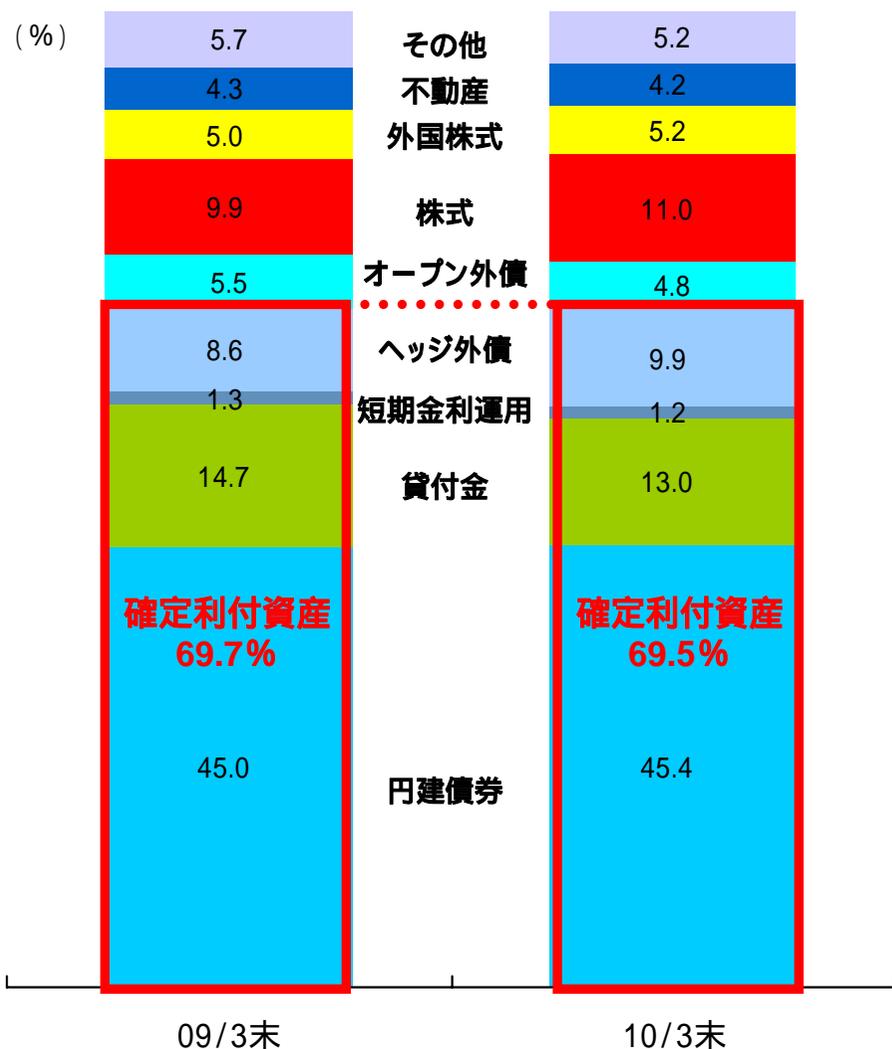
	08/3期	09/3期	10/3期
経常収益	894	3,871	9,613
うち保険料等収入	891	3,862	8,632
うち変額年金	891	3,664	7,324
うち定額年金	-	-	721
経常費用	1,007	4,332	9,696
うち責任準備金等繰入額	887	3,474	8,640
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(は戻入)	11	371	369
うち危険準備金繰入額	8	34	404
うち資産運用費用	18	503	162
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失	-	1	158
経常利益(は損失)	112	460	83
当期純利益(は損失)	112	461	83

当期純利益(は損失)	112	461	83
(A) 危険準備金繰入額	8	34	404
(B) 最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(は戻入)	11	371	369
(C) 最低保証リスクに対するヘッジ損失	-	1	158
当期純利益 + (A) + (B) + (C)	92	53	110

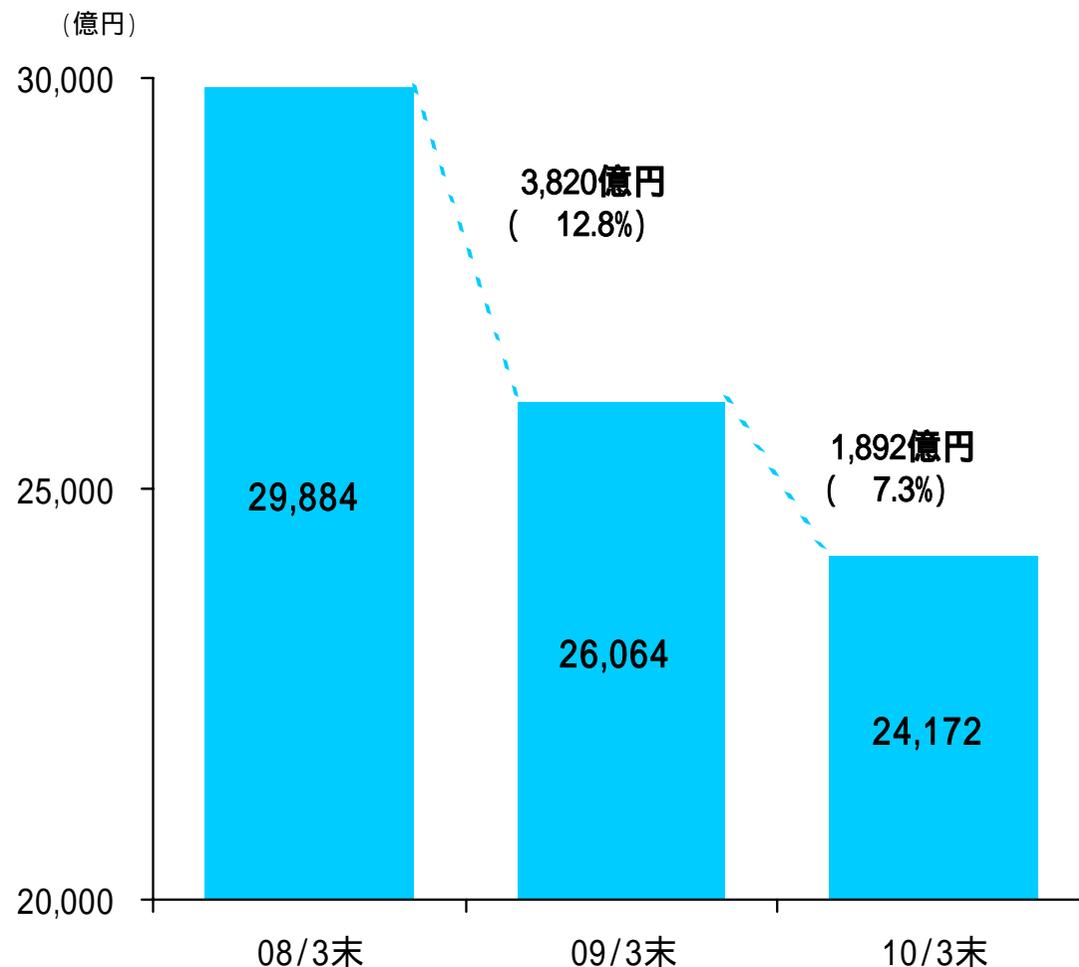
第一生命

一般勘定資産の状況

資産の構成 (一般勘定) (1)



国内株式の簿価 (1)(2)



(1) 第一生命単体ベース

(2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

第一生命

金融市場への感応度(2010年3月末)

	感応度 ⁽¹⁾⁽²⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾⁽³⁾
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 2,700億円(3,200億円)の増減	日経平均株価 ¥8,700 (¥8,000)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 1,500億円(1,400億円)の増減	10年国債利回り 1.6% (1.6%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 180億円(180億円)の増減	ドル/円 \$1 = ¥95 (¥101)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度。

(2) ()の数値は2009年3月末の水準

(3) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準。

第一生命

第一生命単体のEEV感応度

< 参考 >

前提条件	EEV変化額			EEV変化額 (09/3末)
		修正純資産	保有契約価値	
リスク・フリー・レート50bp上昇	12%	21%	33%	22%
リスク・フリー・レート50bp低下	15%	20%	35%	27%
株式・不動産価値10%下落	11%	11%	0%	17%
事業費率(維持費)10%減少	5%	0%	5%	8%
解約失効率10%減少	5%	0%	5%	6%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	4%	0%	4%	7%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	0%	0%	0%	0%
必要資本を法定最低水準に変更	1%	0%	1%	2%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	0%	0%	0%	1%
金利スワップシヨンのボラティリティ25%上昇	0%	0%	0%	0%

第一生命

第一フロンティア生命のEEV感応度

< 参考 >

前提条件	EEV変化額		
		修正純資産	保有契約価値
リスク・フリー・レート50bp上昇	5%	7%	12%
リスク・フリー・レート50bp低下	6%	1%	7%
株式・不動産価値10%下落	2%	6%	5%
事業費率(維持費)10%減少	1%	0%	1%
解約失効率10%減少	1%	0%	1%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	0%	0%	0%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	0%	0%	0%
必要資本を法定最低水準に変更	1%	0%	1%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	14%	0%	14%
金利スワップシヨンのボラティリティ25%上昇	0%	0%	0%

EEV変化額 (09/3末)
2%
2%
2%
0%
1%
0%
0%
1%
5%
0%

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

本資料の問い合わせ先

第一生命保険株式会社
経営企画部 IR室
電話:050 - 3780 - 6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「第一生命」または「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。